

「国民のアイヌに対する理解度についての意識調査」

報 告 書



イランカラプテ

「こんにちは」からはじめよう。

平成 28 年 3 月

内閣官房アイヌ総合政策室

目 次

はじめに.....	1
1 調査の概要.....	2
(1) 調査の目的.....	2
(2) 調査対象者.....	2
(3) 調査の方法.....	2
① 調査対象者の把握.....	2
② 調査の実施（調査票の配布・回収）.....	3
(4) 調査の内容.....	3
2 調査の結果.....	4
(1) 基本的事項.....	4
ア 都府県別の人数.....	4
イ 男女別人数.....	4
ウ 年齢別人数及び現在の職業.....	5
(2) 差別や偏見の有無について.....	5
(3) 差別や偏見があると思う理由について.....	6
(4) どのような場面でどのような差別を受けたかについて.....	9
ア 自分が差別を受けている場合.....	9
イ 家族・親族・友人・知人が差別を受けている場合.....	11
(5) 差別の原因・背景について.....	13
(6) 差別を無くすために必要なことについて.....	15
(7) 差別や偏見がないと思う理由について.....	17
(8) 国民理解の促進について.....	19
3 まとめ.....	21
（別紙1）国民のアイヌに対する理解度についての意識調査 調査票.....	23

はじめに

平成25年10月に内閣府大臣官房政府広報室において、「アイヌ政策に関する世論調査」を実施し、「アイヌの人々に対して、現在は差別や偏見がなく平等であると思いますか」という設問に対し、「平等ではないと思う」(9.2%)、「どちらかという平等ではないと思う」(24.3%)をあわせると、約3分の1にのぼっていたことから、その要因を分析し、対応策を検討するための基礎資料を得るため、「国民のアイヌに対する理解度についての意識調査」を実施することとなった。

本調査は、差別や偏見に特化し、かつ、全国規模で行う初めての調査である。

アイヌの人々については、今でもその多くが北海道に居住しているといわれているが、一方で、生活基盤を北海道外に移したアイヌの人々も少なくないといわれており、十分に把握されていない状況にあるため、調査対象者の把握から行う必要があった。

このため、内閣官房アイヌ総合政策室のホームページによるアイヌの人々への調査協力の呼びかけをはじめ、アイヌの人々が多く居住している北海道や東京都に対し、調査実施の周知協力を行うとともに、(公社)北海道アイヌ協会の協力も得て、北海道内のアイヌの人々から、北海道外に居住するアイヌの人々を紹介していただき、さらにそこから紹介していただくという方法(機縁法)を採用した。

このように、全国的な調査対象候補者の把握、調査対象者の確保は容易ではなく、北海道・東京都の広報協力をはじめ、随時、調査実施の広報を展開しつつ、調査にご協力をいただくことをご了承いただいた方から順次、調査票を送付しつつ、更なる調査対象候補者の把握・確保を並行して行いながら、調査対象者の確保に努めた。

その結果、調査対象者1,000人中705人、回収率70.5%と極めて高く、かつ、差別や偏見に特化した初めての全国調査という観点でも、十分に意味のある調査と言えるであろう。

本調査にご協力いただいたアイヌの方々をはじめ、関係機関に対し改めて御礼を申し上げます。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

平成 25 年 10 月に内閣府大臣官房政府広報室において実施した「アイヌ政策に関する世論調査」の中で、「アイヌの人々に対して、現在は差別や偏見がなく平等であると思いますか」という設問に対し、「平等ではないと思う」(9.2%)、「どちらかという平等ではないと思う」(24.3%)をあわせると、約3分の1にのぼっていたことから、その要因を分析し、対応策を検討するための基礎資料を得るために調査するものである。

(2) 調査対象者

全国 20 歳以上のアイヌの人々。

なお、本人がアイヌであることを否定している場合は調査対象としない。

(3) 調査の方法

① 調査対象者の把握

北海道内においては、(公社)北海道アイヌ協会の構成員(各地区アイヌ協会)の会員等から、地域及び年齢構成、男女のバランスを考慮の上、本調査の対象になると思われる人(以下、「調査対象候補者」という。)を抽出し、本人であること及びアイヌの血縁等(直系血縁者との続柄等)について確認し、調査趣旨を理解の上、調査への協力を承諾した者を調査対象者とした。

北海道外においては、(公社)北海道アイヌ協会の構成員(各地区アイヌ協会)の会員等の親族又は知人を紹介してもらい、さらに他の調査対象候補者を紹介してもらうことによって、調査対象候補者の把握を行った(機縁法による把握)。

このうち、本人であること及びアイヌの血縁等(直系血縁者との続柄等)について確認し、調査趣旨を理解の上、調査への協力を承諾した者を調査対象者とした。

結果、多くのアイヌの方々のご協力を得て、1,000人が調査対象者として確定した。

これに当たっては、多くのアイヌの方々に調査にご協力いただけるよう、内閣官房アイヌ総合政策室や(公社)北海道アイヌ協会のホームページでの周知や北海道内のアイヌ地区協会や関東のアイヌ4団体への協力及び親族・知人等の紹介依頼、アイヌの人々が多く居住している北海道や東京都への周知(ホームページやチラシ備え置き等)協力依頼、イベントでのチラシ配布など周知・広報を行った。

② 調査の実施(調査票の配布・回収)

本調査は、事前に調査対象候補者に調査趣旨を理解いただき、調査協力の承諾を得た者を調査対象者として確定していることから、郵送により調査票の配布・回収を行うこととし、平成27年10月26日(月)に調査対象者に対して調査票を郵送、平成27年11月20日(金)を回答期限とした。また、可能な限り未返信者への再度の協力依頼、遺漏項目の確認等聞き取り補正を行った上で、最終的な調査票の回収数は、705名、回収率は70.5%となっている。

(4) 調査の内容

※本調査は無記名。

① 調査票(別紙1のとおり)

アイヌの血縁者で20歳以上の者に対し調査するもの。

調査項目は以下のとおり。

ア 基本的項目(住所、性別、年齢、職業)

イ 現在、差別や偏見があると思うかどうか

ウ 差別や偏見があると思う、または、ないと思う理由

エ どのような場面でどのような差別を受けたのか(自分が差別を受けた場合、家族・親族・友人・知人が受けた場合)

オ 差別の原因・背景について

カ 差別や偏見を無くすために必要なことについて

キ 国民理解の促進について

2 調査の結果

上記の調査票による調査の結果は以下のとおりである。

(1) 基本的事項

ア 都道府県別の人数 (表1)

回答した人の都道府県別の人数と構成比については、北海道が最も多く 637 人で全体の 90.4%を占め、次いで東京都 10 人、千葉県、神奈川県が多く関東地方は 4.0%を占めている。

(表1) 都道府県別人数

地方	人数	構成比	都府県別内訳
北海道	637	90.4%	
東北	0	—	
関東	28	4.0%	東京都(10人)、千葉県(10人)、神奈川県(5人)、栃木県(3人)
中部	6	0.9%	静岡県(6人)
近畿	1	0.1%	大阪府(1人)
中国	1	0.1%	広島県(1人)
四国	0	—	
九州	1	0.1%	長崎県(1人)、
無回答	31	4.4%	
計	705	100%	

イ 男女別人数 (表2)

回答した人の男女別構成比については、男性 49.8%、女性 49.4%と概ね半々となっている。

(表2) 男女別人数

	実数	構成比
男性	351	49.8%
女性	348	49.4%
不明	6	0.9%
計	705	

ウ 年齢別人数（表3）と現在の職業（表4）

回答した人の年齢別人数については、60歳代が最も多く、次いで50歳代及び40歳代、30歳代となっている。また、回答した人の現在の仕事(職業)については、「その他」が最も多く、次いで「無職」と「会社員」が多い。

(表3) 年齢別人数

年齢	実数	構成比
20歳代	24	3.4%
30歳代	88	12.5%
40歳代	128	18.2%
50歳代	156	22.1%
60歳代	207	29.4%
70歳代	81	11.5%
80歳以上	16	2.3%
無回答	5	0.7%
計	705	

平均年齢 50歳

(表4) 現在の職業

職業	実数	構成比
会社員	157	22.3%
自営業	86	12.2%
農林漁業職	116	16.5%
学生	5	1.0%
無職	161	22.8%
その他	163	23.1%
無回答	17	2.4%
計	705	

(2) 現在は、差別や偏見があると思うか（表5）

「あると思う」と回答した人は、全体の72.1%と、非常に高い割合を示しており、多くのアイヌの人々が現在も差別や偏見を感じている現実を浮き彫りにした。

また、年齢別では、60歳代が20.7%、50歳代が15.9%、40歳代は、13.5%、30歳代は、9.2%と40～60歳代で概ね5割を占めている。

男女別では、女性の割合が男性を4%上回っている。

(表5-1) 現在は差別や偏見があると思うか。

	実数	構成比
あると思う	508	72.1%
ないと思う	135	19.1%
わからない	62	8.8%
計	705	

(表5-2) 年齢別構成比 ※カッコの前が「実数」 カッコが「構成比」

年代	実数(構成比)		
	ある	ない	わからない
20歳代	14 (2.0%)	4 (0.6%)	6 (0.9%)
30歳代	65 (9.2%)	11 (1.6%)	12 (1.7%)
40歳代	95 (13.5%)	20 (2.8%)	13 (1.8%)
50歳代	112 (15.9%)	34 (4.8%)	10 (1.4%)
60歳代	146 (20.7%)	48 (6.8%)	13 (1.8%)
70歳代	60 (8.5%)	14 (2.0%)	7 (1.0%)
80歳以上	12 (1.7%)	4 (0.6%)	0
無回答	4 (0.6%)	0	1 (0.1%)
小計	508 (70.1%)	135 (19.1%)	62 (8.8%)
合計		705	

(表5-3) 男女別構成比

男女別	内容	実数	構成比
男 351	あると思う	238	33.8%
	ないと思う	83	11.8%
	わからない	30	4.3%
女 348	あると思う	267	37.9%
	ないと思う	51	7.2%
	わからない	30	4.3%
不明 6	ある	3	0.4%
	ないと思う	1	0.1%
	わからない	2	0.3%
合計		705	

(3) 差別や偏見があると思う理由について (表6)

現在は差別や偏見が「あると思う」と回答した人がなぜ差別や偏見が「あると思う」のかについては、「漠然と差別や偏見があるイメージがある」が54.7%と最も多く、次いで、「家族・親族・友人・知人が差別を受けている」が51.4%となっている。

年齢別では、20歳代～50歳代までは、「漠然と差別や偏見があるイメージがある」が最も割合が高く、70歳代と80歳代では「家族・親族・友人・知人が差別を受けている」が最も高い割合を占めている。60歳代では、「漠然と差別や偏見があるイメージがある」と「家族・親族・友人・知人が差別を受けている」が同率で54.8%と高い割合を示している。

男女別では、女性が「家族・親族・友人・知人が差別を受けている」が55.4%と高く、男性は「漠然と差別や偏見があるイメージがある」が57.6%と最も高い割合を示している。

なお、(表6-1)の「その他」としては、「私は小学校の時から、運動会がイヤでした。なぜかと言うと、毛深いからです。ばかにもされ、同級生からはキモチが悪いと・・・小・中・高校の時は、クラスの男子から「あいつの触ったらうつるぞ・・・」とか、色々な事は言われました。私はまだ良い方ですが、姉は中学校時代、男子からは、かんぜん無視・・・です。私達はなにか悪いのでしょうか？ひっそりと暮らすしかないのですか？私達は、アイヌだと分かっていますが・・・なんでアイヌでダメなの？産まれた時は、親は、うれしいはずなのに、皆一緒なのに・・・。」、「就職する時、名前から不採用になることがある」、「職場の休憩室で〇〇はこれだからと眉毛の上に人差し指を当て悪口を言っている。」「少し眉毛が濃いとアイヌと言われますよ。アイヌは罪人ではないよ」、「母が職質を受けていた」、「ネット上でアイヌに対するデマや偏見が見かけられる。心の奥底の本音なのだろう」などが記載されている。

(表6-1) 差別や偏見があると思う理由について <再問1>
(差別や偏見が「あると思う」と回答した者に、複数回答)

回 答	実数	構成比
自分が差別を受けている	186	33.6%
家族・親族・友人・知人が差別を受けている	261	51.4%
アイヌが差別を受けているという具体的な話を聞いたことがある	260	51.2%
経済格差や教育格差がある	233	45.9%
漠然と差別や偏見があるイメージがある	278	54.7%
その他	55	10.8%
計	1273	

(表 6-2) 年齢別構成比及び男女別構成比 (差別や偏見が「あると思う」と回答した者に、複数回答)

内容	自分が差別を受けている	家族・親族・友人・知人が差別を受けている	アイヌが差別を受けているという具体的な話を聞いたことがある	経済格差や教育格差がある	漠然と差別や偏見があるイメージがある	その他
	%	%	%	%	%	%
[年代別]						
20歳代	71.4	71.4	57.1	42.9	71.4	7.1
30歳代	43.1	46.2	49.2	40.0	53.8	18.5
40歳代	28.4	45.3	46.3	36.8	53.7	13.7
50歳代	37.5	46.4	54.5	49.1	61.6	11.6
60歳代	36.3	54.8	50.7	50.0	54.8	6.2
70歳代	36.7	61.7	53.3	46.7	40.0	11.7
80歳代	33.3	66.7	66.7	66.7	41.7	0
[男女別]						
男性	34.0	47.1	55.5	46.6	57.6	7.1
女性	39.3	55.4	47.9	44.9	51.7	14.2

(4) どのような場面でどのような差別を受けたか

ア 「自分が差別を受けている」場合 (表 7)

「自分が差別を受けている」と回答した人が、どのような場面でどのような差別を受けているのかについて、「自分に対して直接的ではないが、自分がアイヌであることを知らない周囲の人がアイヌに対する差別的な発言をしているのを聞いた」が最も多く 62.9%を占めている。次いで、「結婚や交際のこと、相手の親族にアイヌであることを理由に反対された」が 57.5%となっている。

年齢別では、20 歳代～40 歳代までが「職場でアイヌであることを理由に不愉快な思いをさせられた」が最も高い割合を示し、50 歳代、そして 70 歳代～80 歳代では「自分に対して直接的ではないが、自分がアイヌであることを知らない周囲の人がアイヌに対する差別的な発言をしているのを聞いた」を最も多く挙げている。

60 歳代においては、「結婚や交際のこと、相手の親族にアイヌであることを理由に反対された」が最も多かった。

男女別では、男女ともに、「自分に対して直接的ではないが、自分がアイヌであることを知らない周囲の人がアイヌに対する差別的な発言をしているのを聞いた」が最も多く、次いで、「結婚や交際のこと、相手の親族にアイヌであることを理由に反対された」が高い割合を示している。

(表 7-1) の「その他」では、「毛深いため病院等でハダカになる時につらい思いをするため病院に行きづらいが、出産だけはどうすることもできなく辛かった。こんなはずかしいなら子どもはいらないと思った。」、「病院に行くと汚い物でもさわった様に過敏に消毒したり、声を出して「ウワーア・イ・ヌ・・・?」とドクターとナースで話している。」、「就職面接に行き、明日からでも仕事をしてほしいみたいな事を言うので準備万端にして待っていると不採用通知が数日後に届く事が何度もあります」、「アイヌの人から、あんた和人でしょう。和人からはアイヌでしょうと！」などが記載されている。

なお、欄外ではあるが、60歳代の多くの方々が過去に「学校で、アイヌであることを理由に 不愉快な思いをさせられた」と記載されていた。

(表 7-1) どのような場面でどのような差別を受けたか <更問 2-1>

(「自分が差別を受けている」と回答した者に、複数回答)

活動等の内容	実数	構成比
職場で、アイヌであることを理由に不愉快な思いをさせられた	100	53.8%
学校で、アイヌであることを理由に不愉快な思いをさせられた	2	1.1%
結婚や交際のこと、相手の親族にアイヌであることを理由に反対された	107	57.5%
近所、自治会等で、アイヌであることを理由に疎外された	33	17.7%
自分に対して直接的ではないが、自分がアイヌであることを知らない周囲の人がアイヌに対する差別的な発言をしているのを聞いた	117	62.9%
その他	27	14.0%
回答件数計	386	
回答者数	186	

(表 7-2) 年齢別構成比及び男女別構成比 (自分が差別を受けていると回答した方に・複数回答)

内容	職場でアイヌであることを理由に不愉快な思いをさせられた	学校で、アイヌであることを理由に不愉快な思いをさせられた	結婚や交際のこと、相手の親族にアイヌであることを理由に反対された	近所、自治会等で、アイヌであることを理由に疎外された	自分に対して直接的ではないが、自分がアイヌであることを知らない周囲の人がアイヌに対する差別的な発言をしているのを聞いた	その他
[年代別]	%	%	%	%	%	%
20歳代	70.0	20.0	20.0	10.0	50.0	30.0
30歳代	75.0	0	50.0	17.9	64.3	10.7
40歳代	59.3	0	48.1	3.7	55.6	22.2
50歳代	57.1	0	64.3	14.3	71.4	14.3
60歳代	43.4	0	71.7	18.9	56.6	7.5
70歳代	27.3	0	50.0	36.4	72.7	18.2
80歳代	75.0	0	50.0	50.0	75.0	25.0
[男女別]						
男性	50.6	1.2	53.1	19.8	64.2	8.6
女性	56.2	1.0	61.0	16.2	61.9	19.0

イ 「家族・親族・友人・知人が差別を受けている」場合（表8）

「家族・親族・友人・知人が差別を受けている」場合、どのような場面でどのような差別を受けているのかについて、「学校で、アイヌであることを理由に不愉快な思いをさせられた」が62.8%と最も多く、次いで「結婚や交際のこと、相手の親族にアイヌであることを理由に反対された」が56.7%となっている。

年齢別においては、60歳代を除いて、「学校で、アイヌであることを理由に不愉快な思いをさせられた」が最も高く、60歳代では、「結婚や交際のこと、相手の親族にアイヌであることを理由に反対された」を最も多く挙げている。

男女別でも、男女ともに「学校で、アイヌであることを理由に不愉快な思いをさせられた」が最も高い割合を示しているが、女性では「結婚や交際のこと、相手の親族にアイヌであることを理由に反対された」が同率で60.8%と高い割合を示している。

なお、(表8-1)の「その他」では、「人格でなく外見で判断された」、「姑に家柄の違いを指摘された」、「雇用の際にアイヌであることを理由に雇用を見送られた」、「アイヌであることがわかったら無視された。親がアイヌの子と遊んじゃいけないと子どもに言ったことで仲間はずれ」、「銭湯でアイヌが入った後の湯には入らないぞと言っているを聞いた事がありました。風呂で毛を掬う（アイヌスクイ）事など、なにげない事が心のキズをえぐられる深い痛みを感じていること」などが記載されている。

(表8-1) どのような場面でどのような差別を受けたか（複数回答可） <更問 2-2>

（「家族・親族・友人・知人が差別を受けている」と回答した者に、複数回答）

内 容	実数	構成比
職場で、アイヌであることを理由に不愉快な思いをさせられた	119	45.6%
学校で、アイヌであることを理由に不愉快な思いをさせられた	164	62.8%
結婚や交際のこと、相手の親族にアイヌであることを理由に反対された	148	56.7%
近所、自治会等で、アイヌであることを理由に疎外された	33	12.6%
本人に対して直接的ではないが、本人がアイヌであることを知らない周囲の人がアイヌに対する差別的な発言をしているのを聞いた	146	55.9%
その他	28	10.7%
回答件数 計	638	
回答者数	261	
無回答	444	

(表 8-2) 年齢別構成比及び男女別構成比

(「家族・親族・友人・知人が差別を受けている」回答した方・複数回答)

内容	職場でアイヌであることを理由に不愉快な思いをさせられた	学校で、アイヌであることを理由に不愉快な思いをさせられた	結婚や交際のこと、相手の親族にアイヌであることを理由に反対された	近所、自治会等で、アイヌであることを理由に疎外された	本人に対して直接的ではないが、本人がアイヌであることを知らない周囲の人がアイヌに対する差別的な発言をしているのを聞いた	その他
[年齢]	%	%	%	%	%	%
20歳代	60.0	90.0	30.0	0.0	50.0	0.0
30歳代	46.7	66.7	66.7	16.7	60.0	6.7
40歳代	41.9	53.5	44.2	9.3	48.8	16.3
50歳代	44.2	67.3	55.8	11.5	67.3	15.4
60歳代	45.0	60.0	68.8	16.3	57.5	11.3
70歳代	48.6	56.8	45.9	10.8	45.9	5.4
80歳代	37.5	100.0	62.5	12.5	50.0	0.0
[性別]						
男性	44.6	66.1	51.8	11.6	60.7	6.3
女性	46.6	60.8	60.8	13.5	52.7	14.2

(5) 差別の原因・背景は何だと思うか（表9）

「差別の原因・背景は何だと思いますか」と聞いたところ、「アイヌの歴史に対する理解の不十分さ」が最も多く78.0%、次いで「行政や学校教育におけるアイヌの理解を深める取組が不十分」68.5%、「アイヌ文化に対する理解の不十分さ」が66.1%となっている。

年齢別では、20歳代～60歳代までが「アイヌの歴史に対する理解の不十分さ」が最も高い割合を示し、70歳代～80歳代では「行政や学校教育におけるアイヌの理解を深める取組が不十分」が最も多かった。

なお、80歳代においては、同率で「経済的格差」も高い割合を示している。

男女別では、男女ともに「アイヌの歴史に対する理解の不十分さ」が高く、次いで、「行政や学校教育におけるアイヌの理解を深める取組が不十分」が多かった。

（表9-1）「その他」では、「先住民族としての地位が確立されていない。先住民族とは何かを理解されていない。「アイヌ」だというと何を考えているかわからないと言われる。不勉強!」、「アイヌだけのアイヌ教育にとらわれすぎ! 差別ありきの国に問題有、アイヌ自身が親から子へ伝えられない現況を変える」、「学校教育では、教科書にのっていても授業で触れない、又、教師も知識が薄いと思う」、「日本民族の他民族（他文化）に対する歴史的な認識の軽薄さに起因」、「北海道の歴史、開拓以前の歴史、同化の歴史、民族は多様であること、侍だけが日本ではない、内地の歴史だけで今の日本が成立している訳ではない。」などが記載されている。

（表9-1）差別の原因・背景について <更問 3>

（差別や偏見が「あると思う」と回答した者に、複数回答）

内 容	実数	構成比
アイヌの歴史に関する理解の不十分さ	396	78.0%
アイヌ文化に対する理解の不十分さ	336	66.1%
行政や学校教育におけるアイヌの理解を深める取組が不十分	348	68.5%
経済的格差	253	49.8%
教育水準の格差	251	49.4%
雇用の不安定	194	38.2%
その他	64	12.6%
わからない	21	4.1%
回答件数計	1863	
回答者数	508	
無回答	197	

(表 9-2) 年齢別構成比及び男女別構成比 (差別や偏見があると回答した方・複数回答)

「内容」	アイヌの歴史に関する理解の不十分さ	アイヌ文化に対する理解の不十分さ	行政や学校教育におけるアイヌの理解を深める取組が不十分	経済的格差	教育水準の格差	雇用の不安定	その他	わからない
[年齢]	%	%	%	%	%	%	%	%
20歳代	92.9	85.7	92.9	42.9	64.3	35.7	7.1	0.0
30歳代	87.7	72.3	80.0	43.1	44.6	35.4	13.8	1.5
40歳代	72.6	60.0	60.0	35.8	31.6	26.3	23.2	4.2
50歳代	75.0	67.0	62.5	46.4	51.8	41.1	14.3	7.1
60歳代	82.2	67.8	68.5	57.5	53.4	43.2	6.8	3.4
70歳代	70.0	60.0	75.0	66.7	63.3	43.3	8.3	3.3
80歳代	58.3	58.3	66.7	66.7	58.3	41.7	8.3	8.3
[性別]								
男性	76.1	65.5	68.9	49.6	47.1	33.6	12.2	2.5
女性	79.8	67.0	68.2	50.6	51.7	42.7	13.1	5.2

(6) 差別を無くすために必要なことについて（複数回答可）（表 10）

「差別を無くすために必要なことは何だと思いますか」と聞いたところ、「アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育」が最も多く 80.7%、次いで、「アイヌへの教育の充実・支援」が 62.6%、「アイヌへの理解を深めるための啓発・広報活動」が 53.1% であり、国民理解の促進が極めて重要だと思っているアイヌの方々多数を占めている。

年齢別そして男女別ともに、「アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育」が最も高く、次いで、「アイヌへの教育の充実・支援」が多かった。

ただ、20 歳代については、「アイヌへの理解を深めるための啓発・広報活動」が次に高い割合を示している。

（表 10-1）の「その他」では、「小学校の先生がまず理解をして子ども達に教えてほしい。今現在、純粋な「日本人」がいないように純粋な「アイヌ」もいません。もしかしたら、自分たちの先祖にアイヌがいるかもという事も教えないと、アイヌとわかっている子どもたちにイジメがあったり、アイヌはいない、なんていうおバカ発言につながったりすると思います。偏見をもった親を子どもから改善しては？と思います」、「国、県、市町村において一定率雇用する旨の法的措置を。文化的法律のみでは、失われた 100 年をカバーできない。経済・教育の支援は不可欠である」、「アイヌ問題は、アイヌの問題じゃなく日本人の問題!」、「差別している側の意識調査をする!アイヌ側では無いと思います」、「自立するための自己決定権の確立、46 の権利宣言をすみやかに施行する」などが記載されている。

(表 10-1) 差別を無くすために必要なこと <更問 4>

(差別や偏見が「あると思う」と回答した者に、複数回答)

回 答	実数	構成比
アイヌへの理解を深めるための啓発・広報活動	270	53.1%
アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育	410	80.7%
アイヌへの職業訓練の充実や雇用の確保	268	52.8%
アイヌへの教育の充実・支援	318	62.6%
アイヌへの差別に対する専門の相談機関・施設の充実	232	45.7%
その他	77	15.2%
わからない	23	4.5%
計	1598	

(表 10-2) 年齢別構成比及び男女別構成比

(差別や偏見があると回答した方・複数回答)

「内 容」	アイヌへの理解を深めるための啓発・ 広報活動	アイヌの歴史・文化の知識を深めるた めの学校教育	アイヌへの職業訓練の充実や雇用の確保	アイヌへの教育の充実・支援	アイヌへの差別に対する専門の相談機 関・施設の充実	その他	わからない
[年齢]	%	%	%	%	%	%	%
20歳代	78.6	92.9	42.9	71.4	57.1	14.3	0.0
30歳代	63.1	81.5	58.5	64.6	36.9	18.5	4.6
40歳代	49.5	69.5	37.9	53.7	32.6	17.9	8.4
50歳代	46.4	78.6	49.1	58.0	43.8	16.1	7.1
60歳代	50.7	86.3	58.2	63.7	53.4	13.0	2.7
70歳代	60.0	81.7	65.0	75.0	53.3	11.7	0.0
80歳代	66.7	91.7	50.0	75.0	66.7	8.3	0.0
[性別]							
男性	56.7	79.8	50.8	61.8	47.9	14.7	2.9
女性	50.6	81.3	54.3	62.9	43.4	15.7	6.0

(7) 差別や偏見がないと思う理由について (表 11)

現在は差別や偏見が「ないと思う」と回答した人が何故差別や偏見が「ないと思う」のかについては、「差別を受けたことがないから」が71.1%ている。次いで、「今のアイヌは、アイヌ以外と同様に現代的な生活をしているから」が68.9%となっている。

年齢別では、20歳代～30歳代、そして60歳代～80歳代においては、「差別を受けたことがないから」が最も高く、40歳代～50歳代では、「今のアイヌは、アイヌ以外と同様に現代的な生活をしているから」を最も多く挙げている。

男女別では、男性が「差別を受けたことがないから」、女性は、「今のアイヌは、アイヌ以外と同様に現代的な生活をしているから」が最も高い割合を示している。

表 11-1 の「その他」では、「アイヌ文化は素晴らしい、差別する人は無視すればいい」、「私は自信を持っている、差別を受けていると思う1人1人の差だと思います」、「差別していることが恥ずかしいことだと思えるから」、「昔は差別を受けている場面を見たり、差別を受けている話を聞いたりしたが、今は、そういう場面を見たり聞いたりしていないと思う」などが記載されている。

(表 11-1) 差別や偏見がないと思う理由について

(差別や偏見が「ないと思う」と回答した方に、複数回答)

回 答	実数	構成比
差別を受けたことがないから	96	71.1%
差別を受けている場面を見たり、差別を受けている話を聞いたことがないから	57	42.2%
今のアイヌは、アイヌ以外と同様に現代的な生活をしているから	93	68.9%
アイヌもアイヌ以外と同様に人権を保障されているから	59	43.7%
アイヌに対する理解を深める取組の効果が出ているから	47	34.8%
その他	11	8.1%
わからない	4	3.0%
計	367	

(表 11-2) 年齢別構成比及び男女別構成比

(差別や偏見が「ないと思う」と回答した方に、複数回答)

内 容	差別を受けたことがないから	差別を受けている場面を見たり、差別を受けている話を聞いたことがないから	今のアイヌは、アイヌ以外と同様に現代的な生活をしているから	アイヌもアイヌ以外と同様に人権を保障されているから	アイヌに対する理解を深める取組の効果が出ているから	その他	わからない
[年齢]	%	%	%	%	%	%	%
20歳代	100.0	25.0	75.0	75.0	25.0	0.0	0.0
30歳代	72.7	9.1	45.5	18.2	27.3	18.2	0.0
40歳代	55.0	45.0	70.0	45.0	30.0	5.0	0.0
50歳代	64.7	47.1	73.5	44.1	32.4	11.8	2.9
60歳代	79.2	47.9	75.0	47.9	39.6	8.3	2.1
70歳代	64.3	28.6	57.1	35.7	35.7	0.0	14.3
80歳代	100.0	75.0	50.0	50.0	8.5	0.0	0.0
[性別]							
男性	77.1	45.8	62.7	43.4	36.1	45.5	3.6
女性	62.7	37.3	78.4	41.2	33.3	54.5	2.0

(8) 国民理解の促進について (表 12)

「広く国民が、アイヌに関して、関心を深めるためには、どのような方法による取組が効果的だと思うか」については、「講演会・シンポジウム・フォーラム・文化交流イベントの開催」も53.9%、となり、「テレビ番組や新聞を利用した情報提供」が全体の53.8%、となっている。次いで、再現されたアイヌの伝統的家屋・食事・衣服・楽器の体験」が45.4%となっていることから、今後の国民理解の促進については、広く国民の目に触れやすい手法で、かつ、体験型の広報活動を検討していく必要があるという結果が出ている。

年齢別では、20歳代～30歳代、60歳代～80歳代が「テレビ番組や新聞を利用した情報提供」が高い割合を示している。

40歳代においては、「テレビ番組や新聞を利用した情報提供」と「講演会・シンポジウム・フォーラム・文化交流イベントの開催」が高い割合を示し46.9%で同率、50歳代では、「講演会・シンポジウム・フォーラム・文化交流イベントの開催」が57.7%で最も多かった。

男女別では、男性が「テレビ番組や新聞を利用した情報提供」を最も多く挙げており57.0%、女性は「講演会・シンポジウム・フォーラム・文化交流イベントの開催」で55.5%を占めている。

また、(表 12-1) の「その他」では、「関心を深めるのではなく、歴史的な教育が必要」、「関心を深めるための取組は必要ない。それをしようと思うのは、自分達を卑下しているから。先住民族の権利宣言の履行を強く訴えていくべき」、「教職員・議員への啓発・勉強会、アイヌ語を公用語に！ 新聞・テレビで使うこと」、「国会、地方での議員枠、または発言、発信する権利、沖縄や在日等の方々にも必要」、「アート、音楽活動を通じての興味・関心」、「謝罪と保証」などが記載されている。

(表 12-1) 国民理解の促進について <問 2>

(アイヌに関して関心を深めるためにはどうしたらよいか、複数回答)

回 答	実数	構成比
テレビ番組や新聞を利用した情報提供	379	53.8%
広報誌・パンフレットの配布、ポスターの掲示	196	27.8%
インターネットによる広報活動	231	32.8%
講演会・シンポジウム・フォーラム・文化交流イベントの開催	380	53.9%
再現されたアイヌの伝統的家屋・食事・衣服・楽器の体験	320	45.4%
キャラクターやロゴマークを活用した親しみやすさを感じる広報活動	177	25.1%
その他	93	13.2%
特になし	27	3.8%
わからない	109	15.5%
計	1912	

(表 12-2) 年齢別構成比及び男女別構成比 (アイヌに関して関心を深めるためにはどうしたらよいか)

内 容	テレビ番組や新聞を利用した情報提供	広報紙・パンフレットの配布、ポスターの 掲示	インターネットによる広報活動	講演会・シンポジウム・フォーラム・文化 交流イベントの開催	再現されたアイヌの伝統的家屋・食事・ 衣服・楽器の体験	キャラクターやロゴマークを活用した親 しみやすさを感じる広報活動	その他	特になし	わからない
	%	%	%	%	%	%	%	%	%
[年齢]									
20歳代	70.0	37.5	37.5	54.2	41.7	33.3	16.7	0.0	20.8
30歳代	54.5	26.1	42.0	53.4	43.2	27.3	20.5	1.1	15.9
40歳代	46.9	23.4	30.5	46.9	43.0	31.3	15.6	6.3	17.2
50歳代	46.8	23.1	28.8	57.7	40.4	16.7	13.5	5.1	15.4
60歳代	58.5	29.5	38.2	55.1	48.3	24.6	11.1	3.4	15.5
70歳代	56.8	35.8	21.0	55.6	54.3	27.2	8.6	2.5	9.9
80歳代	81.3	43.8	25.0	62.5	50.0	37.5	0.0	6.3	6.3
[性別]									
男性	57.0	29.9	37.6	53.0	41.9	25.6	12.3	4.0	12.8
女性	50.6	25.9	28.4	55.5	49.1	24.7	14.4	3.4	17.5

3 まとめ

今回の調査結果の概要は以下のとおりである。

(1) 本調査に回答した人々について

- ・居住地 北海道が最も多く全体の9割強、次いで関東地方となっている。
- ・男女別人数 男女別構成比は、半々となっている。
- ・年齢別人数 60歳代が最も多く、次いで50歳代及び40歳代となっている。
本調査の回答者の平均年齢は50歳。

(2) 結果概要

各設問において、最も多くの割合を示したのは、

- ① 現在、差別や偏見が「あると思う」(72.1%)
- ② 差別や偏見が「あると思う」理由は、「漠然と差別や偏見があるイメージがある」(54.7%)
- ③ 一方で、差別や偏見がないと思うのは、「差別を受けたことがないから」(71.1%)
- ④ 自分が差別を受けている場合、どのような場面でどのような差別を受けたかについては、「自分に対して直接的ではないが、自分がアイヌであることを知らない周囲の人がアイヌに対する差別的な発言をしているのを聞いた」(62.9%)
- ⑤ 家族・親族・友人・知人が差別を受けている場合、どのような場面でどのような差別を受けたのかについては、「学校で、アイヌであることを理由に不愉快な思いをさせられた」(62.8%)
- ⑥ 差別の原因・背景は、「アイヌの歴史に関する理解の不十分さ」(78.0%)
- ⑦ 差別を無くすために必要なことは、「アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育」(80.7%)
- ⑧ 効果的な国民理解の促進については、「講演会・シンポジウム・フォーラム・文化交流イベントの開催」(53.9%)

【小 括】

現在、アイヌに対する差別や偏見があると思っている人が72.1%と多数を占めており、その理由としては、「漠然と差別や偏見があるイメージがある」、「アイヌが差別を受けているという具体的な話を聞いたことがある」等が50%を超えており、「その他」の具体的な差別内容としては、身体的特徴によるものが多かった。

差別の原因・背景としては、「アイヌの歴史に関する理解の不十分さ」であることを示しており、差別を無くすためには、その取り組みを着実に進め、かつ、効果的な理解促進策を講じることが求められている。

(3) 総括

今回の調査結果は以上のとおりである。全国規模でかつ、差別や偏見に特化した調査は初めての実施であり、現在のアイヌの人々の差別や偏見に関する意識を確認することができたことは大きな意義があるものと考えられる。

「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」報告書は、国の政策として近代化を進めた結果、アイヌ文化に深刻な打撃を与えたという歴史的経緯に起因する生活や教育面での格差について指摘している。本調査においても、差別の原因・背景として「アイヌの歴史に関する理解の不十分さ」(78.0%)、「行政や学校教育におけるアイヌの理解を深める取組が不十分」(68.5%)、「アイヌ文化に対する理解の不十分さ」(66.1%)、「経済的格差」(49.8%)、「教育水準の格差」(49.4%)の順に高い割合を示している。

調査結果にも示されたとおり、「国民理解の促進」が最も重要である。「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」報告書の中で、『「民族の共生」という理念は、国際的にも迫られているものであり、国民誰もが相互に人格と個性を尊重し合う共生的かつ多元的な社会を目指すわが国においても、国民がこの理念を共有する必要がある。国民一人ひとりが、自分たちも一民族であると認識するとともに、アイヌという独自の先住民族が国

内に生活していることを認識し、尊重するようになることが求められているといえよう』と記されている。

このようなことから、「アイヌの人々に対する差別や偏見が解消され、アイヌの人々が、自らをアイヌであると誇りを持って言える社会を目指す」ためには、今回の調査結果を踏まえると、必要な対応策として求められている最大の施策は一義的には「国民理解の促進」であり、その上で「先住民族アイヌ」として全国規模の総合的なアイヌ政策の確立を着実に進めていくことが必要である。

これにより、歴史的経緯に起因するアイヌの人々と他の日本人との格差及びアイヌの人々への差別を解消し、それを未来へ向けて発展させることが、「異なる民族の共生」と「文化の多様性の尊重」を目指している国際社会において、日本の地位をさらに高めることにつながると信じて、報告書を閉じる。

(別紙1)

国民のアイヌに対する理解度についての意識調査

問1 アイヌに対して、現在は差別や偏見があると思いますか。この中から1つだけお答えください。

- 1 あると思う
- 2 ないと思う → 更問5へ
- 3 わからない → 問2へ

(問1で「あると思う」と答えた方に)

更問1 なぜ差別や偏見があるかと回答しましたか。この中からいくつでもあげてください。

- 1 自分が差別を受けている → 更問2-1へ
 - 2 家族・親族・友人・知人が差別を受けている → 更問2-2へ
 - 3 アイヌが差別を受けているという具体的な話を聞いたことがある
 - 4 経済格差や教育格差がある
 - 5 漠然と差別や偏見があるイメージがある
 - 6 その他 ()
- 更問3へ

(更問1で「自分が差別を受けている」、「家族・親族・友人・知人が差別を受けている」と

こた かつ
答えた方に)

更問2-1 どのような場面ばめんでどのような差別さべつを受けましたか。この中からいくつでもあげて
ください。

- 1 職場しょくばで、アイヌであることを理由りゆうに不愉快ふゆかいな思いおもをさせられた
- 2 学校がっこうで、アイヌであることを理由りゆうに不愉快ふゆかいな思いおもをさせられた
- 3 結婚けっこんや交際こうさいのことで、相手の親族あいて しんぞくにアイヌであることを理由りゆうに反対はんたいされた
- 4 近所きんじよ、自治会じちかいとう等で、アイヌであることを理由りゆうに疎外そがいされた
- 5 自分じぶんに対して直接的たい ちよくせつてきではないが、自分がアイヌであることを知らないし
周囲しゅういの人がアイヌにたい対する差別的さべつてきな発言はつげんをしているのを聞いたき
- 6 その他た ()

更問2-2 家族・親族・友人・知人が受けたのはどのような場面ばめんでどのような差別さべつでし
たか。この中からいくつでもあげてください。

- 1 職場しょくばで、アイヌであることを理由りゆうに不愉快ふゆかいな思いおもをさせられた
- 2 学校がっこうで、アイヌであることを理由りゆうに不愉快ふゆかいな思いおもをさせられた
- 3 結婚けっこんや交際こうさいのことで、相手の親族あいて しんぞくにアイヌであることを理由りゆうに反対はんたいされた
- 4 近所きんじよ、自治会じちかいとう等で、アイヌであることを理由りゆうに疎外そがいされた
- 5 本人ほんにんに対して直接的たい ちよくせつてきではないが、本人ほんにんがアイヌであることを知らないし
周囲しゅういの人がアイヌにたい対する差別的さべつてきな発言はつげんをしているのを聞いたき
- 6 その他た ()

更問3 ^{さべつ げんいん はいけい なん おも なか} 差別の原因・背景は何だと思ひますか。この中からいくつでもあげてくたさい。

- 1 ^{れきし かん りかい ふじゅうぶん} アイヌの歴史に関する理解の不十分さ
 - 2 ^{ぶんか たい りかい ふじゅうぶん} アイヌ文化に対する理解の不十分さ
 - 3 ^{ぎょうせい がっこうきょういく りかい ふか とりくみ ふじゅうぶん} 行政や学校教育におけるアイヌの理解を深める取組が不十分
 - 4 ^{けいざいてきかくさ} 経済的格差
 - 5 ^{きょういくすいじゅん かくさ} 教育水準の格差
 - 6 ^{こよう ふあんてい} 雇用の不安定
 - 7 ^た その他 ()
 - 8 わからない
-

更問4 ^{さべつ な ひつよう なん おも なか} 差別を無くすために必要なことは何だと思ひますか。この中からいくつでもあげてくたさい。

- 1 ^{りかい ふか けいはつ こうほうかつどう} アイヌへの理解を深めるための啓発・広報活動
- 2 ^{れきし ぶんか ちしき ふか がっこうきょういく} アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育
- 3 ^{しよくぎょうくんれん じゅうじつ こよう かくほ} アイヌへの職業訓練の充実や雇用の確保
- 4 ^{きょういく じゅうじつ しえん} アイヌへの教育の充実・支援
- 5 ^{さべつ たいおう せんもん そうだんきかん しせつ じゅうじつ} アイヌへの差別に対応する専門の相談機関・施設の充実
- 6 ^た その他 ()
- 7 わからない

(問1で「ないと思う」と答えた方に)

更問5 なぜ差別や偏見がないと回答しましたか。この中からいくつでもあげてください。

- 1 差別を受けたことがないから
- 2 差別を受けている場面を見たり、差別を受けている話を聞いたことがないから
- 3 今のアイヌは、アイヌ以外と同様に現代的な生活をしているから
- 4 アイヌもアイヌ以外と同様に人権を保障されているから
- 5 アイヌに対する理解を深める取組の効果が出ているから
- 6 その他 ()
- 7 わからない

問2 広く国民が、アイヌに関して、関心を深めるためには、どのような方法による取組が効果的だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。

- 1 テレビ番組や新聞を利用した情報提供
- 2 広報誌・パンフレットの配布、ポスターの掲示
- 3 インターネットによる広報活動
- 4 講演会・シンポジウム・フォーラム・文化交流イベントの開催
- 5 再現されたアイヌの伝統的・家屋・食事・衣服・楽器の体験
- 6 キャラクターやロゴマークを活用した親しみやすさを感じる広報活動
- 7 その他 ()
- 8 特になし
- 9 わからない